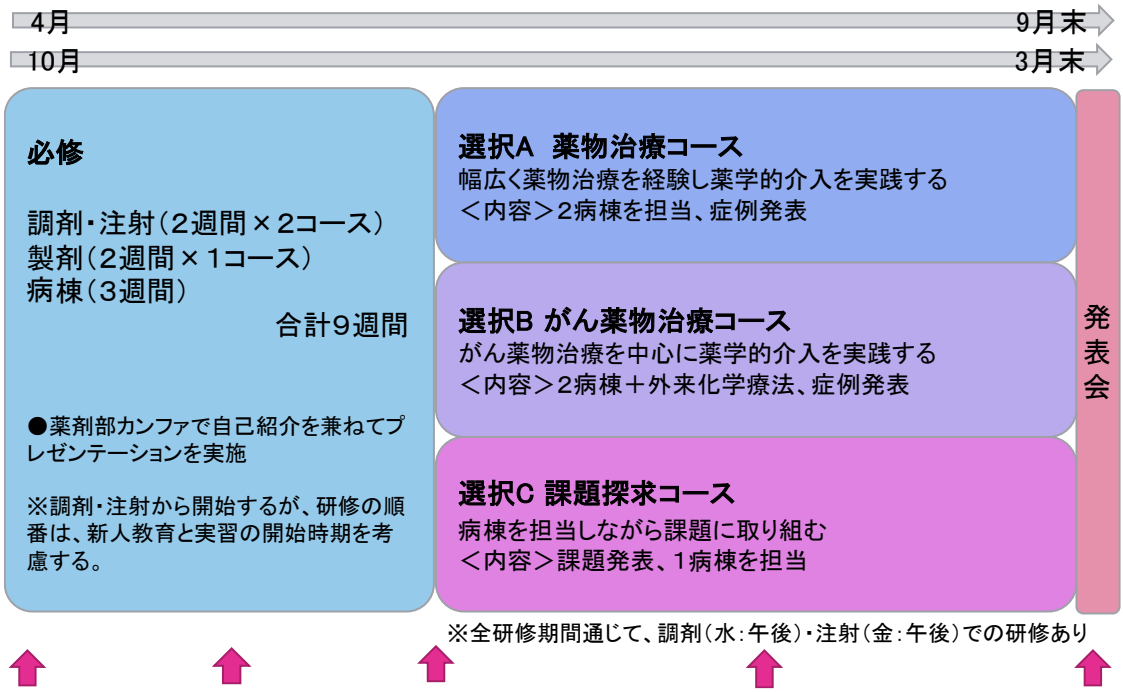
（別紙）研修プログラム



Ⅰ．前半（約 2 ヶ月）

- 病院薬剤師の基本業務である調剤室と薬品管理室にて，内服薬および注射薬の調剤を行います．
- 製剤室では，TPN や抗がん剤無菌調製の手技を学びます．
- 前半の病棟での研修では，幅広い薬物治療および病棟薬剤師の業務内容を 10 病棟以上の複数病棟で体験します．病棟業務の基本となるカルテの見方，薬物治療を患者の病態や症状，バイタルや検査値を含めてどう評価するか，薬剤管理指導記録の記載方法を習得することが目的です．

Ⅱ．後半（約 4 ヶ月）

後半の研修では，3 つの選択コースを用意しています．研修生はいずれかのコースを選択してもらいます．

（選択 A）薬物治療コース

- 幅広く薬物治療を経験し，薬学的介入を実践するコースです．
- 慢性期に対しての薬物治療の評価および管理を実践します．（一般的な薬物治療に限定せず，がん化学療法や急性期病院ならではの薬物治療を体験する機会もあります．）

（選択 B）がん薬物治療コース

- がん薬物治療を中心に薬学的介入を実践するコースです.
- 病棟では, がん化学療法を予定する患者を主に担当しますが, がん化学療法が入院目的となる患者だけでなく, 様々な入院目的の患者を担当します. 外来がん化学療法患者も受け持ちます.

（選択 C）課題探求コース

- 病棟を担当しながら，研究課題に取り組むコースです.
- テーマは，病棟での症例，当院薬剤部内での課題，所属薬局での課題など.

Ⅲ．発表会

A, B コースでは，病棟や外来で経験した症例について症例発表を，C コースでは，課題発表を行います.

Ⅳ．その他

- 週に１回，研修内容を振り返り，研修内容を週報として記録します.
- 研修の評価は，ルーブリック評価表を用いて自己評価を定期的に実施します.
- 病棟での研修では, 関わった症例を一覧表にまとめ, 研修での体験内容を後から振り返ることができるようにします.
- 研修の進捗状況を確認するために, 週報やルーブリック評価表を用いた自己評価, 症例一覧表を用いて，研修期間中に 5 回の面談を実施します.
- 研修修了後には，総括評価をフィードバックします.